

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評価			
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)	学校関係者の意見	次年度に残された課題
2 教職員の専門性・資質・指導力の向上	<p>自己理解・他者理解を支える 生徒指導の充実</p> <p>【総合支援課】</p> <p>(1) 自己理解を進める指導の充実を図るために、学び高め合う教職員集団を目指すとともに、教員の専門性を高める。</p>	<p>(1)-1 徳島型メンター制の実施を通して、教員の相互学習を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンターチームを組織する。 ・メンティーのニーズを活かした研修を年6回以上実施する。 ・各研修後、内容を全教職員に周知する。 <p>(1)-2 進路決定に向けて、生徒が自己理解を進めることを目指すため、進路に関する事例研修を年2回実施する。</p>	<p>(1)-1 研修を通して学び合うことができた実感した教員が80%以上である。</p> <p>(1)-2 研修を通して、生徒が自己理解を進めるための手立てを他の教員と共に考え、実践することができたと答えた教員が80%以上である。</p>	<p>(1)-1 研修に参加した教員の87.5%が「学び合うことができた」と回答し、「少し思う」と回答の1名と合わせると、すべての参加者が研修を通して学び合うことができた実感することができた。</p> <p>(1)-2 長期休業中に1・2年生の担任の教員を中心にそれぞれ1回ずつ、年2回事例研修会を実施した。研修に参加し、アンケートに協力した教員のうち、手立てを考えることが「できた」「まあできた」と回答した教員が80%以上であった。研修で決まった指導内容を校内で共有し、実践していると答えた教員は80%以上であった。また、日頃から生徒が自己理解を進めるための取組を教職員で話し合うことが「できた」「まあできた」と全ての教員が回答している。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>【生徒一人一人に応じた学習や生活する力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就業体験の実習先や進路先の開拓に関係機関と協力されているが、必要であれば「商工会」も協力しているかもしれない。 ・実習先に尽力いただくことになるが、評価のタイミングや方法を工夫することで、より成長につながる実習になる。 	

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評価				
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)	学校関係者の意見	次年度に残された課題	
3 家庭・地域・関係機関との連携・協働をととした学校づくり	<p>地域と連携した教育活動の推進</p> <p>【総合支援課】 (1) 地域のニーズに即した特別支援教育に関する教員研修の充実を図り、特別支援学校のセンター的機能の強化を図る。</p> <p>【高等部】 (2) 生徒の実態に合わせた地域貢献活動に取り組み、『地域を元気にする力(役割を果たす力、協力する力)』を育てる「3S活動」(Skill・Space・Smileをシェアする活動)の充実を図る。</p>	(1)-1 地域の教育委員会や総合教育センターと連携し、小中学校の特別支援教育に関わる教職員を対象とした研修会を実施する。	(1)-1 地域の小中学校の特別支援教育コーディネーター、特別支援学級担任、支援員及び助教員を対象とした研修会を3回以上実施する。	(1)-1 地域の小中学校の特別支援教育コーディネーター・特別支援学級担任・通級指導教室担当者研修会1回、特別支援学級担任研修会2回、支援員及び助教員研修会2回の計5回実施することができた。また、今年度は美馬市子どもすこやか課からの依頼で、就学前の子どもと関わる美馬市立こども園の担任、支援員研修会も2回実施した。	A	<p>【地域と連携した教育活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標にある「役割を果たす力」「協力する力」がどれくらいあったのか、この取り組みによりどのよう成長したのかが見えてくるとなおよい。 ・地域貢献活動(ケアプラザでの野菜の配布を通じた交流)では、利用者方は、本当に喜ばれていたのか。元気をいただいている。 ・「みまカフェ」の運営では、子どもたちとコミュニケーションする中で、本当に元気をもらっている。地域を元気にする力、人を元気にする力がある。 ・この学校評価にあげられていない取り組みも子どもの成長につながっている。うれしい変化が家庭で見られている。 ・学校は、コミュニケーションを育む場や成功体験を得られる場だと思う。子どもたちに、この活動がどれだけ人の役に立っているのか、感謝されているのか、伝えてあげてほしい。 		
		(1)-2 地域の特別支援教育に係る専門性の向上を図るため、小中学校等の教職員を対象とした演習型研修会を実施する。	(1)-2 地域の小中学校の教職員を対象とした公開研修会において、今後の実践に役立つ情報を得ることができたと実感した受講者が80%以上である。	(1)-2 夏季休業中に四国大学学修支援センター准教授 喜馬久典氏を講師として、『自立活動の指導を問題解決しながら学ぶ』という演題で研修会を実施した。実施後のアンケートで、とても役立つ・やや役立つと合わせた回答が100%であった。				A
		(2)-1 地域と連携した地域貢献活動に発展するために、近隣の中学校と協働して実施できる地域貢献活動を計画・実施・評価する。	(2)-1 近隣の中学校と協働して実施できる地域貢献活動を年間2回以上計画・実施する。また、実施後には協働先と活動のフィードバックをする機会を設定する。	(2)-1 協働しての清掃活動は、生徒の実態を考え1回のみの実施となった。啓発活動として、中学生のみまカフェへの来店や中学校文化祭で本校の学校紹介パネルの展示を行った。フィードバックにおいて、次年度からの活動に向け、活動のシンボルマークを両校の生徒で投票し決定した。				A
(2)-2 各活動ごとに、地域を元気にするために身につけたい目標リストから、生徒自身が個人目標を立てる。事後に自己評価・他者評価する機会を設定する。さらに、年間複数回実施する地域貢献活動については、生徒自身が立案した目標設定・評価シートを、次回活動前に確認できるようにする。	(2)-2 地域を元気にするために身につけたい目標リストを見て、生徒が個人の目標を自分で立案できる。複数回実施する地域貢献活動については、生徒自身が前回立案した目標設定・評価シートを参考にする。各活動とも自己評価の達成率が80%以上となる。	(2)-2 お接待活動1回、清掃活動2回、野菜や花の苗の配布を3回以上行った。地域を元気にするために身につけたい目標リストを見て、生徒自身が立案し活動に臨むことができた。複数回実施した活動では、前回の反省や教員から挙げられた『次回取り組んでほしい点』を参考に目標を選びチャレンジする姿も見られた。全活動で見ると達成率は90%だった。1度だけ80%を下回る活動があった。苦手な部分にチャレンジしたが、1度の活動では克服するには至らなかったと感じた生徒がいたためと推測される。	B					

教育目標	重点目標	活動計画と評価指標		評価		学校関係者の意見	次年度に残された課題
		活動計画	評価指標	活動計画の実施状況と評価指標の達成度	総合評価(評定)		
3 家庭・地域・関係機関との連携・協働をととした学校づくり	【学校生活課】 (3) 家庭や地域の方々との防災についての実践的な学びの機会を設定し、防災に関する知識を広げる。	(3)-1 地域の方々・生徒・教員が、少人数のグループに分かれ、防災グッズの活用、防災知識についてクイズ等を通して学ぶ学習を実施する。	(3)-1 研修の参加者を対象にしたアンケートにおいて、防災についての「知識が増えた」「意識が高まった」と答えた割合が、80%以上になる。また、得られた知識を具体的に記入する参加者が、複数名以上となる。	(3)-1 防災学習には、発達障がい者総合支援センターアイリスや自治会の方にも参加していただいた。防災グッズは、実際に手に取り、使用方法を確認した。外部講師を招聘した水災害の学習では、VR機器や水害実験装置を使い、クイズも交えながら学習した。実施後のアンケートで、防災についての「知識が増えた」「意識が高まった」と答えた割合は、80%以上であった。また、「ハザードマップの活用」「避難準備や日頃の備え」などについて学ぶことができたとの記述が複数名からあった。	A		
		(3)-2 参観日に、家庭における災害への備えについて学んだり、「緊急時引き渡しカード」を用いた実際のなやりとりを行ったりする活動を実施する。	(3)-2 保護者、生徒、教員を対象にしたアンケートにおいて、①家庭での備えについての「知識が増えた」「意識が高まった」、②緊急引き渡しカードを使った手続きについて「理解できた」と答えた割合が、80%以上になる。	(3)-2 家庭における非常用品の準備や災害伝言ダイヤルについて、生徒と保護者がタブレットを操作しながら一緒に学んだ後、緊急時引き渡し訓練へと進めた。訓練は、地震発生を想定した一斉の連絡メールにより、保護者に迎えを依頼する形とした。引き渡しの受付では、「緊急時引き渡しカード」を用いた本人確認を経て、引き渡した。実施後のアンケートで、①家庭での備えについて「知識が増えた」「意識が高まった」②緊急時の引き渡し手続きについて「理解できた」と答えた割合が80%以上であった。	A		